

グループホーム ひまわり

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目）

取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	3	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	1	
		1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでは理念に基づき、寄り添い笑顔のあるさりげない支援を心がけてきた。今回外部評価を機会に理念を再検討した。学習しながら職員の思いを尊重し、グループホームひまわりの目指す理念を作成した。（地域との交流と看とりの介護を意識した）	1	
		2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、ケアプランをたて、本人本位の笑顔を引き出す介護を頑張っている。	1	人権尊重の本人本位を継続して学び、実践していく予定。
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の中の住人という意識で、施設のたよりに地域交流活動の記事を載せ、家族や地域の方（地域の予防介護教室参加の方）に配布して知らせている。隣組の回覧版でたよりを回してもらい予定である。（公民館長さんから承諾あり）	0	
			2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	1	
	2	4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣店舗の方々とは挨拶は欠かさない。併設の診療所の馴染みの患者さんも高齢化でエレベーターの使用が困難になり、立ち寄られる方も少なくなっている。診療所の二階部分にあるため、もっと気軽に遊びにきていただけるような取組を模索している。	0	
		5	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体となる法人が友の会形式であり、併設の診療所が主体となり、ひまわり職員や利用者も参加して、地域活動（盆踊り大会・もちつき大会・健診活動・日帰り温泉旅行等）に参加している。また、併設のデイケアと合同でクリスマス会や七夕祭りなど合同で行い、楽しい交流を支援している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の民生委員さんのお世話で予防介護の教室（いきいきクラブ）に参加しているが、職員の介護の仕方や関わり方をとうして認知症の方の理解が少しずつできている。法人で介護予防推進委員会（月1回）があり、この地域で、介護予防教室の企画を検討している。	1	介護予防教室の計画実行。
	3		理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	1	
	3	7	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分たちのケアの見直しの機会と捕えて、評価内容を謙虚に受けとめ、改善の努力をしている。今回は各職員が自己評価を記入し、グループホームの目指す評価内容を強く認識できた。	0	
		8	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設たよりに利用者の生活状況や地域交流の記事を載せ、会議で説明している。また、評価や改善内容も資料を元に報告し、サービスの向上に活かしている。職員は交替で参加し、状況の把握と意見を言える場になっている。	0	
		9	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしん介護相談員受け入れ事業所職員の会議参加や実地指導内容の相談など、何かあれば相談しながら運営している。	0	
		10	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前年後は行政の方に依頼して併設の診療所と合同で学習会を開き、虐待防止法について講義していただいた。今年度は、権利擁護事業について、公的な研修の機会を利用する予定であるがまだ、具体的な予定はない。	1	地域権利擁護学習参加の予定。
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	9月に身体拘束廃止委員会を施設独自で設置した。2か月に1回定期的に入権尊重の視点で、高齢者虐待防止法についても学習する予定である（8月から学習開始）	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	0	
理念に基づく運営		12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書を元に十分説明している。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族に交替で参加してもらい、自由に意見が言えるように配慮している。	0	
	4	14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや金銭管理などは、ご家族などの訪問時に伝えている。また毎月のたよりに掲載している。医療管理については医療連携の在宅用カルテで簡単に説明し、仏要があれば医師からの説明の時間設定を調整している。	0	
		15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時や年1回の説明懇談会には要望の聞き取りを積極的に行っている。苦情に対しては苦情処理対応マニュアルに沿って、再発防止に努めている。事故や苦情報告など個人名は伏せながら、運営推進会議で情報開示し、改善の報告をしている。	0	
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひまわり会議で意見交換は自由にできる雰囲気があり、職員の提案は話し合い運営に反映させている。	0	
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や突発的な対応にも柔軟に対応し、勤務調整している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	4 理念の実践体制	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交替はないが、職員の離職（移動は無い）についてはホームでお別れ会などして、利用者のダメージ防止に配慮している。	0	
		5 人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)			自己評価6項目・外部評価4項目	0
	5 人材の育成と支援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に際しては特に差別は無いが、職員の年齢構成を考えた採用をしている。社会参加や自己実現については、積極的に応援し、勤務調整している。	0	
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	今年度から2年間、管理者が認知症コーディネーター養成研修を受講しており、その伝達学習で強調して繰り返し伝えている。身体拘束廃止の学習内容も人権教育に取り組む予定である。	0	
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の介護部は行政のすすめる“認知症の方が安心して住み続けられる街づくり”に協働しており、管理者や職員も積極的に研修や講習会に参加している。今年度は管理者はコーディネーター研修（2年間）と職員2名が認知症ケア研修会を受講（年6回）している。	0	
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は他のグループホームの看とり介護検討会議に参加し、意見交換した。また、グループホームの夏祭りに利用者と一緒に参加し、地域活動を学んだ。	0	
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスはケアサービスに影響するため、十分考慮して休憩時間の確保や休息できるベッド設置している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれの力量に合わせスキルアップの研修を促し、管理者も率先している。	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)			自己評価4項目・外部評価1項目	0	
	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用まで情報提供を元に本人と面談し、十分聞き取りしている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用まで情報提供を元に家族と面談し、十分聞き取りしている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応については、家族や介護支援専門員・包括支援センター・生活保護課との連携により、必要時、支援する用意がある。	0	
		28	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用前には本人・家族の施設見学をしてもらい、納得された契約となる。入居体験の希望があれば短期利用も可能である。(居宅ケアマネジャーと確認して可能な場合)	0	
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)				自己評価6項目・外部評価1項目	0
係り2 続と これ へな のま まで の支 援 関 係 づ く り	29	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は、魚をさばいてもらったり、料理の仕方を教えてもらうなど、支えあっている。また、昔の歌も教えてもらっている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との情報共有に努め、ケアチームの強力な一員として、協力をお願いしている。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は高齢者の支援に家族の存在が重要であることを認識しており、ケアプランに具体的に本人から家族への想いを記載して、それを実践している。職員は施設での楽しいことや明るいことを話題に、家族が来たくくなるような対応をしている。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方との馴染みの関係が途切れないように地域活動に参加している。(地域の介護予防教室いきいきクラブ参加)また、馴染みの店に買い物援助をしている。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の関係を把握して、食卓の位置や入浴は考慮している。その他は自由にされているが、仲間はずれになることがあれば、職員が介入して、孤立しないように努力している。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方についても、病院や施設に訪問したり、家族と会えば近況を話し合い相談にも載っている。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1~4 (自己 35~51・外部 17~22)				自己評価17項目・外部評価6項目	1	
	1	一人ひとりの把握(自己 35~37・外部 17)		自己評価3項目・外部評価1項目	0	
	1	35 外部評価17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人からの情報を聞き取り、本人の思いに沿うケアに努めている。また、表面的な要望だけではなく、心の奥に秘めた要求を察知して本人本位に検討している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や職業歴など馴染みの暮らし方をセンター方式で情報収集し、家族にも協力していただいている。さらに、傾聴し、楽しみや趣味など、本人の意向をくみ取る努力をしている。	0	
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの心身状態に合わせて、現状を総合的に把握するように、医療連携からの情報（医療・歯科管理情報提供・医療連携情報）と暮らしぶりを総合的に把握している。その日の体調に合わせて、入浴時間を変えたり、リハビリを勧めたり、無理せず楽しく過ごされるように支援している。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	1		
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者を中心に関わる関係者と話し合い、介護計画を作成している。状況変化に合わせ検討したり、定期的な会議でプランを改善している。	0	
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3か月毎にしているが、見直し以前に例えば看とり介護に同意するなどの変化が生じた場合は、現状に即した新たな計画を作成している。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の暮らし方や変化の状況を記載（7表）して、介護計画の見直しに活用している。	1	今年度記録用紙を整備し、ケアプランの見直しを3か月毎にした。経過記録から見直しまでの流れをきちんとする予定。
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	3 多機能を活かした柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能の利用状況は無いが、利用者が入院された時、家族に遠くから来てもらったため居室を利用してもらった。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価 10 項目・外部評価 2 項目	0	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	イベント時は併設のデイケアと合同で企画し、演芸などボランティアをお願いしている。消防署員から消火指導・地域の民生委員に運営推進委員として活動・小学校のボランティアクラブからの訪問・高校生ボランティアの受け入れ等	0	
	4	43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの実態は無い	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居待機者で、家族からの金銭虐待のから、居宅事業所のケアマネージャーを中心に地域包括支援センターと話し合い対応している。以前に高齢者虐待防止法について講師依頼し、実施した。	0	
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に希望のかかりつけ医があれば、希望に沿って対応している。婦人科・眼科など受診援助している。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要時は協力医療機関の医師の外来受診をしている。(物忘れ外来医)	0	
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携の看護師と情報交換しながら、医療管理や医療活用の支援をしている。栄養士からの指導・理学療法士の指導なども必要時は受けている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合は、入院生活の援助と情報提供・入院中の面会を行い、入院治療がスムーズにできるように支援をしている。退院時は主治医や家族と話し合い、利用者の意向に沿って対応している。緊急の早期退院にも対応し、治療の継続も支援している。	0	
		49	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、3人の看とり同意者がいて、中には、肺炎の治療を繰り返しされている方もいる。終末期に入る前に関わる医療・介護のスタッフで意志統一の会議をする予定である。（1事例の看とりの経験有り）	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看とり同意書は重症化にならないうちから話し合い、決めている。外出やイベント参加は、かかりつけ医や医療連携の担当看護師と相談しながら、検討している。基本的には本人や家族の希望にあわせている。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	前年度は本人希望で自宅に帰られた方については、居宅事業所のマネージャーを中心に関係者と話し合い、安全に住み替えのダメージを防ぐことができた。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価 3 8 項目・外部評価 1 1 項目	3	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価 3 0 項目・外部評価 9 項目	3	
		(1)	一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	1	
		52	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーを損ねないようなことばかけや対応には注意をしていると思うが法的な学習をしていないので、今後の課題である。情報の保護については、内部監査や併設の診療所の管理指導に沿って整備している。	1	個人情報保護法については少し認識が深まってきたと感じるが、プライバシー保護法についてはこれからの課題で、10月に学習会に参加し、さらに全員に伝達学習をする予定である。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションの仕方 難聴の方は耳元でゆっくり低い声)を工夫しながら、返事を急がず待つ等、本人の思いをくみ取り自己決定で納得のいく暮らし方の支援をしている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部 評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムに合わせ食事や入浴・睡眠など支援しているが、体調や他の方との調和なども考えて支援している。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55～60・外部 25～26)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在は訪問理美容を利用して、満足されている。特に希望があれば支援する体制はある。外出日は化粧や外出着を念いりに支援している。	0	
		56 外部 評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューはその都度調理担当者が決めているので、利用者に希望を聞きとりいれている。また食事の準備や調理も個人の力に合わせ達成感が感じられるように支援している。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の嗜好の物は聞き取り実現できるようにケアプランに記載している。タバコについて身体的な問題と火災の可能性が大きいことから、現在は喫煙されていない。他の楽しみで満足されている。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を基本に支援している。そのためトイレに新たに手摺をつけて、安全に排泄援助ができるようにした。必要な方は食前食後やその前兆を見極め、排泄介助や下着のチェックを行い、不快にならないように支援している。	0	
59 外部 評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はほとんど毎日可能で、日勤帯の2人体制以上の時に入浴を誘っている。(無理に誘わない)気の合う同士で入られ、職員と話をしながら入浴を楽しまれている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝は自由にされていて、必要な方は援助している。夜間はそれぞれの睡眠パターンを把握して安眠できるように支援している。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	1	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	7月にケアプランを見直し、できることや役割などを検討して、プランに具体的に記載し支援している。楽しみごとは、温泉行きや花見・地域の予防教室に参加するなど支援している。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理をされている方や小使いを持ってある方は、好きなお菓子や物を買われている。管理が困難な方には、外出時にサイフを持っていただき、買い物支援をしている。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩に行きたい方2~3人を援助している。雨の時は、併設の診療所やデイケアへ行き、挨拶を交わすなど気分転換を図っている。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月行事の外出日に温泉や花見・買い物など出かけている。家族も誘って一緒に行ったこともあり、今後も誘っていく。	0	
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話があり、気軽に家族にかけられている。不安になった方や援助が必要な方には、電話や年賀状・絵手紙の支援をしている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき たい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や地域の方が気軽に訪問していただけるように心がけている。8月に玄関のロックを解除して入りやすいようになった。今後、当事業所でも予防介護の教室を小規模でも定期的にしたいと考えている。	1	介護予防推進の課題を来年度にはきちんと始めたいので、いきいきクラブの予防介護教室を参考に、地域の方が参加していただく予防教室を企画実施。
		(4)	安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)	自己評価 8項目・外部評価 2項目	1	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度身体拘束廃止の委員会の基準で学習会を定期的に行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	0	
		68	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は徘徊者の怪我などで玄関にロックをかけていたが、検討して8月に玄関ロックを解除した。玄関ドアの開閉時にチャイムが鳴るので、素早く対応している。一人体制の場合には対応できないため、エレベーターのスイッチを切るようにはしている。	0	
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個人のプライバシーに配慮しながら、居室の前を通る際に、静かに確認している。離居の可能性のある方は職員は把握しており(徘徊者マニュアルに有り)、常に注意を払っている。	0	
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状態によって、ハサミや針の私物を管理されている方もいる。異食の危険がある方については、対応を常に話し合い、その方を中心に危険物の対策をしている。	0	
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを再度読み合わせして確認した。事故再発防止の話し合いをして、その都度検討している。(例えば色別のお盆や散葉の容器変えるなど)また、個別の事故の可能性をプランに記載して、意識づけを強化した。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の講習会・学習会で学び、身につけるようにしている。救急蘇生法については、毎年実施している。	0	
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の公民館長に運営推進委員として活動していただいているので、協力をお願いする予定。	1	#REF!
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについては、具体的にケアプランに記載し、家族や職員も認識している。危険を予防しながら、その人らしい暮らし方を話し合っている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	0	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	現在2人の方が肺炎を繰り返しているが、毎日5回ほどの検温をして、変化があれば医療連携の看護師に連絡している。夜間も異変の早期発見に努めて、迅速な対応に繋げている。また、記録に残し、申し送りで情報の共有に努めている。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の効能については、説明書をいつでも見れるように食堂に下げている。それぞれの決まった方法で服薬の支援をしている。薬による症状変化も観察している。	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防対策では、水溶性と非水溶性の繊維の多く食材を利用している。野菜を好まれることもあり、野菜中心の食事になっている。それぞれの体調にあわせ、大勢での体操や個別の歩行訓練など支援している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけをして、できない方は援助している。週に1回口腔ケアサービスを受けている。	0		
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	慢性疾患により、カロリー制限や塩分・水分制限の方や他の方も個別に好みや量など調整している。水分については尿量や回数も見ながら、水分補給の援助をしている。	0		
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防注射は毎年職員と利用者、全員実施している。その他、手洗いやうがい、手すりの清潔（日に2回除菌ペーパーで拭く）や毎日の掃除（月1回の大掃除）で感染症予防に努めている。	0		
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は夜勤者の業務で除菌などマニュアルに沿って実施し、チェック表に記入している。食材は新鮮なものをその都度購入し、賞味期限のチェックも毎日している。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	0	
	2 生活の環境づくり その人らしい暮らしを支える	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5 項目・外部評価 2 項目	0	
		82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の構造上、理想的にはできないが、できるだけ草花を植えて雰囲気を作っている。	0		
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに西日が当たるため、光を和らげるために、絵などを飾って防いでいる。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが広く、至る所にイスやソファを設置して、好きなところでくつろいだりおしゃべりされている。	0		
		85 外部評価33	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族はいつでも泊まれるようになっている。居室には家族の写真や馴染みの家具があり、本人や家族と相談しながら居心地良く過ごせるように工夫している。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に気を配り、温度調節もこまめにしている。トイレは常時換気している。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下が広く、車イスの自操も可能で、手すりや杖を持って見守られながら移動されている。居室内はつかまれる家具やイスなどを置き、転倒防止をしながら自立した生活ができるように工夫している。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示や居室の場所を分かりやすく工夫している。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや玄関に花や野菜を植えて水やりや草とりを利用者と一緒に行っている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	
サービスの成果に関する項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	3		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	3		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	1	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	2	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。